

年3回の1日参観型のオープンスクール ～地域のつながりの核としての学校づくりをめざして～

○学校名 伊丹市立天神川小学校

○実施日 平成17年2月16日（水）など3日間

児童数 1,100 名を数える大規模校において、年3回の「1日参観型」のオープンスクールを実施している。平常授業を基本とし、保護者や地域の人々が参加する授業も盛り込んでいる。校区の社会福祉協議会など地域の諸団体との交流を基盤として、1回の来校者が1,200 名を超えるなど、地域の期待が高い。

1 学校の実態

本校は伊丹市最北部に位置する昔からの農村地帯に位置しているが、ここ10年ほどの間に県営住宅・市営住宅が相次いで建設され、人口が急増している。児童数1,113名、35学級（平成17年度）の大規模校である。ここ数年、一部児童による暴力行為など問題行動も多く、学校としては「天小だより」やホームページ、一日参観などを通じて積極的に学校を開き、保護者やPTAだけでなく、地域の教育力を積極的に導入してきた。



校区には9自治会から成る天神川地区社会福祉協議会（地区社協）や「スポーツクラブ21天神川」が組織され、防犯・環境整備・健全育成・スポーツなどさまざまな活動が日常的に行われ、また、夏祭りや秋の「北部ふれあい祭り」などを通じた地域の交流も盛んである。学校も様々な形でこれらの活動に参加している。

また、伊丹市教育委員会による家庭教育「すこやかネット・てんじんがわおぎの」、国立教育政策研究所委嘱の「生徒指導総合連携推進事業」などによる幼・小・中・PTA・地域の連携が進み、同時に、市内校長会と生徒指導担当者が小・中共通の指導事項（①あいさつ運動、②人の話をよく聞く、③授業を大切にする）を決めて実践するなど、多彩な取り組みを行っている。さらに、学校評議員や関係機関の協力を得るとともに、PTAや地区社協関係者・補導委員などが日常的に校内を巡回している。

2 取り組みの工夫

(1) 公開する時間帯・授業など

- ・ 時間帯は、8時30分の「朝の会」から「終わりの会」が終了する14時30分までとし、授業・なかよしタイム（業間）・給食・昼休みすべての教育活動を公開した。
- ・ オープンスクールに合わせて「図工展・家庭科展・クラブ展」を実施した。
- ・ 「校長室へどうぞ」と呼びかけ、保護者・地域の人々の来訪を歓迎した。
- ・ 平常授業を行うが、可能なかぎり保護者・地域の人々が参加できるよう工夫し、親子で作る図工、学年単位での音楽発表会、ゲストティーチャーを招いた授業などを実施した。

(2) 実施に当たって

- ・ 安全対策－「参観のルール」の周知－
オープンスクールを実施するにあたって「安全対策（不審者対策）」が課題であった。

学校への不審者侵入や子どもたちをめぐる凶悪事件などが相次ぐ中で、低学年の保護者・教師の中に根強い不安があった。しかし、何よりの安全対策は「人の目があること」と考え、「天小だより」を通して保護者に理解を求めながら、次のような「参観のルール」を設定し、事前に保護者に周知した。

- ・ 保護者用名札を事前に配布し、来校時には身体が目立つ場所に付けること。
- ・ 東門の受付で、子どもの学年・組・名前を言って名簿のチェックを受けること。
- ・ 地域の方々も、受付で名前を書いてリボンを受け取ること。
- ・ プライバシーの保護のため、みだりに写真やビデオを撮らないこと。さらに、教職員が交代で校内を巡回することで、保護者の不安解消に努めた。

② 地域への広報

従来から地区社協関係者・補導委員などには日常的に参観などをしていただいていたが、オープンスクールの実施にあたっては幅広く地域の人々に参観していただけるよう、自治会の回覧を利用して、校区全域に案内状を配布した。

3 実施の成果

(1) 学校・教師の変化

- ・ ややもすると閉鎖的と言われる学校、「学級王国」と揶揄される学級の一日のすべてをありのままに公開することによって、開かれた学級・学年経営を進めようとする意識が教師の中に広がった。
- ・ 保護者参加の授業が増え、保護者・地域の力を導入しながら教育活動を進めようとする教師が増えてきた。
- ・ 多くの保護者・地域の人たちに子どもたちの顔と名前を覚えてもらうことによって、学校内外での声かけが増え、問題行動が減少してきた。

(2) 児童の変化

- ・ 子どもたちも自分の親だけでなく、地域の人たちに参観してもらうことを楽しみにしており、学習意欲が高まった。
- ・ 子どもたちが地域の人たちと顔見知りになることによって、地域で日常的にあいさつする子どもたちが増えてきた。

(3) 保護者の変化

- ・ 保護者の学校理解が進み、学校評価アンケートでも97%が「一日参観」を支持している。また、ふだんでも「授業を見に来ました」と来校する保護者が増えてきた。
- ・ 保護者参加の授業に対して協力してくれる保護者が増えてきた。

(4) 地域の人々の変化

- ・ 地域の人々にとっても、「わが町の学校」という考え方が広まり、学校の安全確保に対する支援の輪が広がっている。
- ・ 地域の老人会による校庭の清掃奉仕活動が行われた。
- ・ ゲストティーチャーとして、学校で子どもたちに教えることを楽しみにする地域の人々が増え、「次はいつですか」と声をかけてくれるようになってきた。

4 今後の課題

平成16年度の3回の一日参観には延べ1,500名の来校があり、概ね成功であった。平成17年度第1回目の一日参観を4月29日の祝日に実施したところ、1,200余名の参観者があった。今後とも「地域とともに歩む学校」づくりを進めていきたいと考えている。

